

韓国教育財団・碧峯奨学基金と私 第3回 金武偉さん(ボストン大学ロースクール)

「世界に羽ばたく人材に」 弁護士や証券・投資会社を経て独立

日付: 2024年06月11日 10時37分

韓国教育財団碧峯奨学生としてボストン大学ロースクールを修了し、ニューヨーク州弁護士となった。M&A(企業の合併・買収)と米国証券法を専門とし、現在は投資会社を運営している。

投資先企業に経営改善の提言をするアクティビスト(物言う株主)としても活動している。ライブドア騒動で一躍名をはせた村上世彰氏の影響もあり、日本ではネガティブな印象を持たれがちだが、「投資先企業のため、いかに質の良い提案をするかが重要だ」と持論を展開する。

その姿勢が具体的な形になったのが、東証スタンダード市場上場のフューチャーベンチャーキャピタル(FVC)の2022年株主総会での取締役全員交代劇だった。

会社の成長戦略と開示姿勢が不十分と感じられたため、個人株主として全国各地の株主と会い、自身の提案への支持を訴える。のちに可決され、自ら社長に就任した。上場企業で株主提案の可決により、経営陣が交代することは異例であり大きな話題となった。

幼いころから「世界に羽ばたく人になれ」と父親に言われていたため、外交官になりたいと考えるようになった。英語の習得に取り組み、高校を1年で中退して米国に留学。のちにカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に入学する。大学時代は韓国人留学生と交流を持ち、韓国語が上達するとともに、韓国人としてのアイデンティティーが強化された。

大学卒業後はロースクールに合格するが、生活費も含めると約3000万円が必要だった。資金が足りず入学を断念して日本に戻り、再度チャレンジするためゴールドマン・サックス証券、JPモルガンで4年間働いて学資を稼いだ。それでもまだ足りない。

そんなとき2歳上の兄から韓国教育財団碧 = 奨学基金のことを聞かされる。MBAという条件には当てはまっていなかったが、入学するロースクールが全米上位20位圏内という条件を満たしていたので応募したところ、支給が決まった。

ようやく長年の思いが叶ったことで「受給式では自然と涙があふれ出た」と感激を語る。

28歳でボストン大学ロースクールに入学。会社法のほか、国際法などを専攻。判例を毎日500ページ読んだ。膨大な英語の法律文書を読むことで、「文書を解析するスピードが上がり、論理的思考を鍛えることができた」と振り返る。

ニューヨーク州弁護士となり、卒業後は米国の法律事務所でも5年間、M&Aや米国証券法などの業務に携わる。その間も「いつかは外交官に」との志を胸に秘めていたが、やがて弁護士として法律相談や書類を作成するより、自ら会社の経営に携わりたいという思いを抱くようになる。

12年に日本に戻ってからは、投資会社のユニゾン・キャピタルに入社し、投資業務に従事。その後独立し、18年にミッション・キャピタルを立ち上げる。

碧峯奨学基金に対しては「基金のおかげで今がある」と感謝を口にする。それとともに、「若き同胞の将来を金銭的事情で閉ざしてはならない、という先人の崇高な志が同基金設立には込められていると思う。同基金で学んでいる人には、韓半島縁の出自を大切にしつつ、グローバルに羽ばたいてもらいたい」とエールを送る。

世界は現在、ウクライナ戦争やパレスチナ問題などが深刻化し、日本を含む北東アジアでは北韓のミサイル発射実験が相次ぎ、先行きが不透明になっている。

今後、日本の経済状況はどうなるのか。「日本の資本市場は過渡期にある」と言い、「原材料高によるインフレと人口減少の進行などにより、企業は事業戦略の見直しを迫られている。経営体質強化のためのM&Aが盛んになっていくのではないかと大きな企業再編を予測している。

金武偉(キム・ムイ) 1979年生まれ。京都市出身。在日韓国人3世。米カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)卒。ゴールドマン・サックス証券、JPモルガン勤務ののち、韓国教育財団碧峯奨学生としてボストン大学ロースクール修了。ニューヨーク州弁護士として、米法律事務所勤務。帰国後、ユニゾン・キャピタルで投資業務に携わる。2018年ミッション・キャピタルを創業し、社長に就任。



閉じる